

高度情報通信社会における学校教育の在り方

- 学校教育における情報活用の事例研究 -

情報教育研究部会

1 研究主題について

現在は、数年前には考えられなかった画像や動画などの大容量データのやりとりがコンピュータネットワークなどを通して容易に、しかも個人所有の比較的安価なコンピュータで十分できるようになってきた。また、ほとんどの学校がコンピュータ教室を中心に各教室や特別教室、職員室などがLANでつながれ、情報の共有化を行っている。さらに、コンピュータ教室では、40台のコンピュータが一度に使用可能な状況が整ってきた。

このような環境のもと、どのようにして将来を見越した情報リテラシーを身につけさせるかということが課題として浮かび上がってくる。そこで、本年度も昨年度に引き続き、上記主題で研究を進めることにした。

2 研究実践及び内容

平成13年度の研究大会において、「生きる力」を育てる手段として情報教育の必要性を提案した。その後もコンピュータをはじめとする情報通信技術はさらに急速な発展を遂げて、今までにはなかった大量で様々な種類の情報が社会にあふれ出し、携帯電話やコンピュータから簡単に様々な情報に触れることができる時代になった。しかし、これらの大量な情報は受け取る人間によっては、価値のあるものもあれば、単に無用なだけでなく有害な情報も含まれている。

このような現状をふまえて、今後の社会を生き抜いていくには、自分の生活に必要な情報を主体的に収集・分析し、それを生かしていく力が必要であり、これこそ今後の社会を生き抜いていくのに必要な「生きる力」といえる。そこで、次の3つの視点において情報活用能力の育成を目指して研究を進めた。

- ・ 日々発展し続ける情報通信メディアに対し

て情報リテラシー育成の在り方について考える。

- ・ 変化し続ける社会や情報通信メディアに対応した情報モラルの育成。
- ・ 生徒の理解を助けるための効果的なコンピュータ活用の場の設定を考える。

夏季研修会の内容

講演

「情報教育の現状と課題について」
講師：香川県教育委員会義務教育課
主任指導主事 國木 良輝

実技研修

「エクセル実技研修（上級）」

- ・ いろいろな関数の利用
 - ・ 表の作成
 - ・ Visual Basicの利用 等
- 研究大会に関する協議
- ・ 分科会の持ち方
 - ・ 運営組織 等

3 成果と次年度の課題

夏季研修会では白峰中学校の実践事例から、学校全体でコンピュータを活用する新しい方法について研究が進められた。地域をつなぐ「開かれた学校づくり」について様々な試みが行われるようになって久しい。その試みの中でも、学校のホームページの利用が注目されている。今後も活用のしかたによっては、利用価値は高いと思われるので、このような試みも含めコンピュータの活用方法を研究していきたい。